

地域情報 (県別)

地域情報 (県別) »

## 2018年1月にリニューアル「地域の患者さんが気兼ねなく高度医療を」—TMGあさか医療センターの取り組み◆Vol.1

2018年11月14日 (水)配信 m3.com地域版



TMGあさか医療センターの前身、朝霞台中央総合病院は、首都圏で病院や介護施設などを運営する戸田中央医療グループ (TMG) の6番目の病院として、1977年、埼玉県朝霞市に設立された。122床からスタートし、少しずつ規模を拡大しながら地域の医療需要に応じてきたが、手狭になったため新築移転を決断。2018年1月から、旧病院から800メートル離れた東洋大朝霞キャンパス総合体育館跡地に移り、446床の急性期大型病院「TMGあさか医療センター」として新たなスタートをきった。

院長の村田順氏、地域連携課課長の桑原圭介氏、麻酔科部長の成島光洋氏に、地域医療にかけろる思いを伺った。

(2018年8月16日、8月30日インタビュー、計3回掲載の1回目)

### ■地域の患者さんに寄り添う医療を実現

新病院は地上7階建ての免震構造。全体に天井を高くし、自然光を採り入れた明るい空間づくりにこだわった。どの病室にも窓があり、方角によっては病室から黒目川が流れる景観を望むことができる。相部屋ではベッド間に家具調の仕切りを用い、プライベートの空間を確保した。「医療の原点は、患者さんに寄り添うこと。患者さんやご家族が少しでも安らげるように考えました」と院長の村田氏は話す。

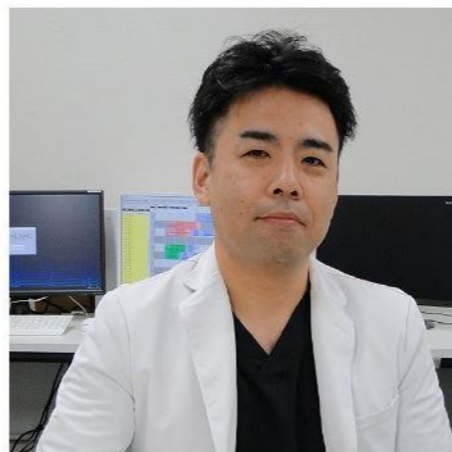


TMGあさか医療センター 院長 村田順氏



家具調の仕切りでプライベートの空間を確保した病室

地域医療にかけろる思いは、見えない部分にも込められている。水害が起こっても医療を継続できるように、配電設備は全て地上に設置した。災害時に周辺住民を受け入れる一時避難所としての機能も備える。また、今後、地域の人口構成や病床規制などが変わった時にも病棟レイアウトを柔軟に変更して患者さんを受け入れられるよう、病室の廊下側に柱を設置しない設計にしている (設計: 清水建設)。



TMGあさか医療センター 麻酔科部長 成島光洋氏

### ■スタッフが快適に作業できる環境を追求

医療スタッフが快適に作業できるようにするための工夫も随所にみられる。廊下はストレッチャー2台が無理なくすれ違えるだけの幅がとられており、8室設置した手術室には、執刀医も医療スタッフも快適に作業できるよう、新空調システムを導入した。

「執刀医は手術用照明の近くで作業し、場合によっては放射線保護衣を着用していたりもするので、かなり汗をかきます。それに合わせて室温を調整すると、周辺のスタッフは寒い思いをすることになるのですが、執刀医周辺 (術野系統) とスタッフ周辺 (周囲系統) の2系統に分けて温度管理することにより、皆が快適な環境で手術にあたることができている」 (成島氏)

### ■最先端の設備で高度先進医療を提供

従来から取り組んできた脳卒中医療、てんかん医療にもさらに力を入れるべく、設備を充実させた。脳外科と循環器それぞれに特化した血管造影室を設置し、一刻を争う脳血管内治療も迅速に対応できるようにしている。

### ■最先端の設備で高度先進医療を提供

従来から取り組んできた脳卒中医療、てんかん医療にもさらに力を入れるべく、設備を充実させた。脳外科と循環器それぞれに特化した血管造影室を設置し、一刻を争う脳血管内治療も迅速に対応できるようにしている。

また、てんかん患者専用の入院設備として、脳波のモニタリングが可能な病床のEMU (epilepsy monitoring unit) を11床整備。そのうち個室2室には、発作時の転倒などによるケガのリスクを減らすよう、生卵を落としても卵が割れない衝撃吸収材を床材として使用している。EMUに併設してあるモニタリングルームでは、EMUだけでなく、ICU、SCU、ERなどで行っている脳波検査を一括してモニターし、専門医が判読する。

「てんかんの治療では、脳波の患者さんの脳の中で何が起きているのかを知ることが重要になりますから、脳波モニタリングの設備には力を入れました。毎朝、脳波カンファレンスを行い、前日の脳波についてディスカッションします。色々な科の医師らが勉強にきています」 (桑原氏)



TMGあさか医療センター 地域連携課課長 桑原圭介氏



脳波モニタリングルーム 提供: TMGあさか医療センター

### ■地域密着型のスーパーマーケットのような病院

最先端の設備を備えても、高級デパートになるわけではない。あくまで「地域の人々が気兼ねなく最先端医療を受けることのできる病院」でありたいと考える。

地域の行事にも積極的に参加する。朝霞市の市民祭り「彩夏祭 (さいかさい)」では、毎年、骨密度測定や血管年齢測定など、医療系のブースを出展。今回は歯科口腔外科の無料検診を実施した。

「病床を増やし、設備を充実させたのは、『断らない医療』を実現するためです。目指すのは『地域密着型のスーパーマーケットのような病院』です」 (村田氏)



2018年の彩夏祭では口腔がん検診ブースを出展。前列右から2人目が桑原氏。後列右から4人目が歯科口腔外科の島崎氏 提供: TMGあさか医療センター

#### ◆村田順 (むらた・じゅん)

1975年3月 東京医科大学卒業。同年4月 東京女子医科大学第二外科入局。1985年9月に前身である朝霞台中央総合病院入職。1994年4月に院長就任。専門は消化器外科。日本外科学会指導医。日本消化器外科学会指導医。日本救急医学会専門医。

#### ◆桑原圭介 (くわばら・けいすけ)

地元である埼玉県朝霞市に生まれ、医療系専門学校を卒業。2000年に戸田中央医療グループ入職、八王子山王病院 (一般急性期157床) 赴任。2005年に前身である朝霞台中央総合病院に異動となり現在に至る。

#### ◆成島光洋 (なるしま・みつひろ)

2001年3月 信州大学医学部医学科卒業後、東京女子医科大学、医療法人立川メディカルセンター立川総合病院、一般財団法人目善会東京警察病院、社会医療法人財団大和会東大和病院を経て、2015年4月に前身である朝霞台中央総合病院に麻酔科副部長として着任。2016年5月より現職。日本麻酔科学会認定専門医・指導医。日本区域麻酔学会認定医 (暫定)。東京医科歯科大学のPDCA医療クオリティマネージャー養成プログラム受講中。

<https://www.m3.com/news/kisokoza/635430>

\* Webからの閲覧には当該サイトへの会員登録が必要です。